

国際ロータリー第2780地区第4グループ合同事業を実施

4月24日に行われた鮎の稚魚の放流事業がメディアに取り上げられました。

第4グループは、茅ヶ崎RC、寒川RC、綾瀬RC、茅ヶ崎湘南RC、綾瀬春日RC、茅ヶ崎中央RCで構成されています。

タウンニュース5月13日号 綾瀬版
綾瀬RCさん提供頂きました

鮎放流で郷土愛する心育む

6RC合同で初の取組み

綾瀬ロータリークラブ（RC）、綾瀬春日RCなど6ロータリークラブが所属する「国際ロータリー第2780地区第4グループ」が、神奈川県産鮎の稚魚放流事業を4月24日に、寒川町の相模川河川敷で初開催した。当日は子どもや保護者、関係者を含め480人が参加。綾瀬からも多くの子どもが集まり、稚魚を川に放した。

この取り組みは、青少年の自然や地域を愛する心を育み、事業を通して河川や環境問題に関心を持たせる

とともに、神奈川県産鮎の存在をより多くの人に知ってもらうことを目的に企画された。

県の委託を受け鮎の稚魚を育てる県内水面漁業振興会や、県水産課、河川管理者である県厚木土木事務所、6ロータリークラブと調整を図り、昨年11月に実行委員会が立ち上がった。その後、開催場所となる寒川町との協議や現地調査などを経て、初の実施にこぎつけた。

480人が参加

当日は3グループに分かれ、稚魚の放流と、紙芝居

師「さるびあ亭かー。」さんを招いた環境保護の紙芝居、カワラノギクの植栽をローテーションで行った。初めての稚魚放流に最初はおっかなびっくりだった子どもたちも、鮎を川に放つと「元気に帰ってこいよ」など声をかけていた。「楽しかった。鮎が、あんなに川の流れに逆らうとは思わなかった」と話すのは茅ヶ崎から参加したという茅ノ間さん一家。また、別の親子も「初めて鮎を見たけど、すごく元気だった。楽しかったので、またやりたい」と感想を述べた。



稚魚を川に放つ子どもたち

リビング湘南5月14日号

茅ヶ崎RCさんより提供頂きました

茅ヶ崎・寒川・綾瀬のロータリークラブが鮎の放流事業を開催

神奈川県内の6ロータリークラブ（茅ヶ崎、茅ヶ崎中央、茅ヶ崎湘南、綾瀬、綾瀬春日、寒川）が、神奈川県産の稚魚を放流する事業を開催した。



これは、地域住民にアユの放流を通して、河川の浄化や環境問題に関心を持ってもらうというもの。寒川町神川橋下流で行われた事業には、約480人が参加。参加者はアユの生態や河川に関する講義を受けた後、アユ1万2000匹を放流した。また、当日は水をテーマにした紙芝居や、カワラノギクの植栽も行われた。

バケツいっぱいのはアユの稚魚を優しく放流する子どもたち